

東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時): 教養学部 3年

参加プログラム: 全学交換プログラム

派遣先大学: ミュンヘン＝ルートヴィヒ＝マクシミリアン大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

ドイツ、バイエルン州ミュンヘンにあり、500年以上の歴史をもつ州立大学である。ドイツ語では通称 LMU。工学部を除くさまざまな学部を有しており、特に神学や哲学をはじめとする文系分野に強いとされる。複数のランキングでドイツ大学1位の座を獲得している。

留学した動機

学部1年の頃に、連邦制をはじめとするドイツの政治制度に関心を持ったが、日本にいても文字上の知識しか身につかないと思い、ドイツの社会生活を直に体験したいと思った。それと同時に、資料を原文で理解するためにドイツ語を読む力を伸ばす良い機会になると考えた。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況: 西暦[2015]年 [学部] / 修士 / 博士[3]年の[S2]学期まで履修

②留学中の学籍: 休学 / (留学) / 研究指導の委託

③留学期間: 2015年9月～2016年7月 [学部] / 修士 / 博士[3]年時に出発

④留学後の授業履修: 西暦[2016]年(学部) / 修士 / 博士[4]年の[A1]学期から履修開始

⑤就職活動の時期: 西暦[2017]年(学部) / 修士 / 博士[4]年の[3]月頃に(行った / (行う予定))

⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[38]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[10]単位
留学後の取得(予定)単位[36]単位

⑦入学・卒業 / 修了(予定)時期: 西暦[2013]年[4]月入学 西暦[2018]年[3]月卒業 / 修了

⑧本学入学から卒業 / 修了までの期間: [5]年[]ヶ月間

⑨留学時期を決めた理由:

ある程度卒業論文で扱いたいテーマは考えていたが、まだはっきりと捉えられていなかったもので、早いうちに現地でのいろいろなことを学んだ方がかえって帰国後の勉強に役に立つと思った。

留学の準備

① 留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

LMUは学期が10月始まりと、他の留学派遣先より遅いせいか、留学先大学への手続きも5月によやく始まったので、なかなか連絡が来ないことに初めは焦った。手続き自体は特に難しいことはなく、オンラインの手続きも現地での手続きもドイツ語または英語での指示を理解できれば問題ない。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ドイツへの日本人渡航者は90日間旅行者ビザが使える。それ以上の滞在許可を得るために現地で学生ビザを申請するが、それに先立って日本のドイツ大使館で収入証明書など必要書類を揃えておく必要がある。学生ビザの取得条件はミュンヘン市の公式サイトに書かれているので参照するとよい。

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

私は渡航前に特別な健康診断を受けることはなかったが、想定し得る限りの市販薬を持参した。特に胃腸が弱いことを自覚していたので胃腸薬を多めに持っていったが、予想以上に食が合わなかったのと、ストレスから留学期間中ほ

ぼずっと胃腸の不調に悩まされた。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京大学から指定のあった海外保険に加入した。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

教養学部はもともと留学する人が多いので、先生方も慣れており、学部での手続きに手間取ることは特になかった。しいて書くとすれば、留学先でとった単位が実際にどれほど単位互換で認められるのか事前にははっきりせず、留学先での履修コマ数に悩んだ。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

LMU ではドイツ語、英語それぞれ受講したい言語について受け入れ基準を設けているが、私はドイツ語で受講する予定だったので申請前に Goethe Institut で B1 を取得した。ただし、9 月に開催される LMU 付属の語学講座に申し込むことはできるが、やはり出発前に B1 では授業についていくのが大変なので、B2 近くまで伸ばしておきたいところ。

※ちなみに私は英語の成績は提出しなかったが、2 学期目に英語で行われる授業を履修・単位取得できたので、書類上の申請と受講資格は関係ないのかもしれない。点が低くて苦労するのは結局自分ではあるが。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

程度は人にもよるが、好きな日本食は出来る限り持参した方がよいと思う。私は頻繁に体調を崩していたが、そのようなときにレンジで温めるタイプのお米があると安心した。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

- ドイツ語準備講座 B1
- ドイツの政治制度(講義)
- ドイツの政治制度(演習)

EU 統合に関する論文購読と議論(英語)

④ 留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

冬学期は予定通りにドイツ国内政治に関する授業を基礎講義と演習のセットで受講することができたため、語学の勉強と同時進行で授業内容の予習復習を欠かさず行った。一応参考論文は毎回提示されていたが、そこまで読む余裕はなかったため、授業中に扱った資料や教科書の内容をしっかりと理解することを重視した。夏学期は国内政治で興味ある分野の授業がなかったため、EU に関するゼミを一つ履修しただけで、あとの時間は授業と関係なく勉強する時間に充てていた。日本では手に入れるのが難しい、または高額になりそうな本を安く手に入れられたり、大学図書館で読んだりできたので、授業は少ないながらも意味ある時間を過ごせたと思う。

⑤ 1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

冬学期が始まる前の9月に大学付属の語学講座に平日毎日通った後、冬学期は聴講を含めて週4コマ、夏学期は1コマ受講した。学習時間は日によってばらばらだったので正確にどのくらいかは分からないが、復習に週の大半を費やし、予習を週末にすることが多く、大体1日最低3時間は使っていたと思う。夏学期は勉強時間を決めることなく、興味のある本を見つけたら読む、というように過ごしていた。

⑥ 学習・研究面でのアドバイス

現地の大学に留学する以上、授業に出るのが大事なのももちろんだが、ただでさえ語学のハンデがあっただけで大変なのに、さらさらと興味のない授業に出続けるよりは、授業外でも現地で興味を持ったことに手を出していく方が有意義だと個人的には考えた。最後の方で読んでいた本は、留学前には予定していなかった分野であるが、ドイツ語文献をたくさん手に入れることができたので満足している。自分が「日本の外での勉強」で何を優先させるかが、全

体的な生活スタイルをも左右すると思う。

⑦ 語学面での苦勞・アドバイス等

私はあまり社交的ではなく、また留学の目的も流暢に会話することではなく、学術的な文献をドイツ語で理解できるようになることだったので、必然的に机に向かう勉強が多くなった。おかげで新聞を読むことには抵抗はなくなったが、最後までネイティブとの会話は苦手なままであった。目的自体は達成されたので後悔はしていないが、もう少し日常的な表現も学んでおいても損はなかったのかなと思うので、自分の中での配分をしっかりとさせておくのと良いのではないかな。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

東大からの留学生が代々引き継いでいる学生寮の部屋を斡旋してもらえたので、自分で探すことはなかった。家賃は水道代や光熱費込で月 254.30 ユーロと、ミュンヘンの学生寮の中でも破格であった。キッチン・シャワートイレ付の個人部屋であったが、ドアや壁が薄く、またベランダも横一列仕切りがなかったため、プライベートがやや気になる面もあった。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

ミュンヘンの生活自体は、多少の違いはあるとはいえ、日本人にとってはかなり快適な生活が送れると言えるだろう。日常生活で不便だったのはスーパーが早くに閉まり、日曜祝日はほぼ休業なことと、日本食が安くはないことくらいで、あとはたまに「日本と違うんだな」と気付く程度である。交通機関も発達しており、学生定期でミュンヘン市内乗り放題であることを考えると、むしろ東京より便利なくらいだった。お金は海外対応のクレジットカードやデビットカードを持参し、ユーロ現金はデビットカードで仕送りから下ろしていた。クレジットカードは買い物には使えたが、設定上の問題かキャッシングできなかったため、現金を手にする手段は念のため二つ以上考えておくのと安全。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安面は(7 月末に発砲事件があったとはいえ)少なくとも私の留学期間の印象でいえば、東京よりも安全だと感じた。置き引きなどの軽犯罪は日本よりも多いかもしれないが、夜暗くなってからでも危険な空気を感じず(敢えて勧めはしないが)女性の一人歩きも可能だった。医療機関には結局かからなかったが、一度高熱で寝込んだ際、保険が適用される、かつ日本語対応している病院を調べる気力がなかったため、予め病院は確認しておいて損はない。ちなみに、ドイツでは軽症には薬ではなく紅茶で対応する文化がある(日本でいう漢方のような感覚)。

④ 留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

月約 500~600 ユーロ

家賃:約 250 ユーロ 健康保険:約 80 ユーロ 食費:約 120 ユーロ 日用品:20~50 ユーロ その他

・留学に要した費用総額とその内訳

航空賃:11 万円 授業料(現地):2.5 万円 交通費:6 万 教科書や本:1.5 万 その他(旅行含):50 万
計 170 万円程度

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター ZDS-BA 奨学助成金 約 40 万円

所属コースから留学する人は大抵受給していたので、早くから先輩に話を聞いていた。

⑧ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

特筆すべきことはしていないが、長期休みを利用してフランスやイタリアに旅行したり、授業の無い日をうまく利用してバイエルン州内の近郊都市へ足を延ばしたりしていた。ローテンブルクやニュルンベルクの他、日本からわざわざ行きはしないような小さな都市にも立ち寄ることができた。

派遣先大学の環境について

① 留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

語学・学習面のサポートは非常に充実しており、大学付属の語学講座があるほか、ドイツ語で行われる講義でも留学

生に理解ある先生が多く、質問に快く答えてくれたり、試験も語学のハンデは考慮してもらえたりする。他にも寮など学生生活に関わるあらゆることに関して確認のメールがあり、こちらの問い合わせに対しても(職員の休暇が日本より長いために返信が遅いということはあるが)担当者の勤務日には必ず返ってくるという対応の良さを感じた。民間企業はともかく、少なくとも大学に関して言えばサポートは総じて充実していたと言える。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

私自身は大学設備をあまり利用しなかったが、東京大学と同程度に充実していると言えるのではないだろうか。学食・スポーツ施設が大学近くにある。図書館は中央図書館に加えて学部ごとにあり、学部によっては学生証無しで入れるほか、スキャンが無料なので日本に資料を持ち帰ることができ、大変便利であった。

留学と就職活動について

① (就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

私は1年卒業を延ばすため、今年インターンに応募していた。まず思いつくデメリットは、ミュンヘン大学は7月中旬まで授業があるために、7月までに行われる説明会や選考会に参加できなかったことである。その期間に参加必須の選考がある企業は、応募を諦めるか帰国を早めるしかない。メリットはインターン段階ではさほど大きくないが、語学や海外経験など書ける項目が増えるのではないだろうか。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

留学で学んだことが直接影響を与えたわけではないが、自由に使える時間が多かったおかげで、自分自身のやりたいことについて改めてじっくり考える機会となった。また、できればドイツでの勤務の可能性がある企業に行きたいという気持ちも強くなった。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

私はインターンの選考対策に少しだけ手をつけたが、結局帰る直前は試験勉強や帰り支度で忙しく中途半端に終わった。志望業界や志望度合にもよるが、はっきりしていないのであればひとまず語学力を伸ばすことに集中したほうが効率が良かったかもしれないと思う。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- 1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)
4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)
6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

① 留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

もともとヨーロッパに住んでいたことがあるので、「日本から出て大きく価値観が変わった」ということはなく、逆にさほど特別感もなく生活できた。私が留学で得られたものは、一つにはもちろん学習面、つまり語学力や知識を伸ばせたことである。より精神面に関わるものでは、考え込みすぎて食欲もなくなるほど自分のことだけをじっくり考える時間をもてたことだ。留学前は「しなければならぬ」で動いていたものが、「何をしたいのか」を考え始めたことによって手が止まったり、逆に今まで抑え込んでいた欲求が沸き上がって手当たり次第に本を読んだり、ある意味「自分探し」をすることができた。留学前には自分の目標ははっきりしていたと思っていたため、これは予想外の時間の使い方であったが、結果的に自分にとってはいい方向にはたらい。

② 留学後の予定

卒業は1年延ばす予定でいるので、1年かけて就職活動をする傍ら、留学中に興味をもった分野の知識を深めたいと考えている。他にも語学試験などを定期的に受けることで、語学力の維持・向上を目指す。

③ 今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

東大から留学をするような人は基本的にとても優秀で、目標も高くはっきりしており、留学先でもストイックに生活しているイメージがあるかもしれませんが、私自身「そうあらねば」と考えていた結果、留学中に自分の中の理想と本音のギャップに深く思い悩むことがありました。しかし、後から振り返ってみればそれもアリなのだと思います。最初にかっ

ちり決めた目標から逸れてしまっても、一生懸命考えて生きていれば何かしらの成果は残ります。ですので、もし留学に対して不安があっても、「自分なんか留学しても無駄かも」と悲観せずに、まずは何か目標をつくって臨んでみるというかもしれません。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

必要に応じてその場で調べていたので、特定のサイトは覚えていません。

会話表現集が、友達ができるときに「今度はあれを使おう」というモチベーションに繋がりました

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時): 教養学部教養学科・3年

参加プログラム: 全学交換留学

派遣先大学: ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン(通称ミュンヘン大学)は西暦 1472 年創立の歴史ある大学で、ドイツで最も優秀な大学の一つである。文系、理系合わせて 18 の学部があり、工学系以外であればほとんどどんな分野でも学ぶことができる。大学はミュンヘンの中心に位置しているため交通の便が良く、何をするにも不自由しない。ドイツ語だけでなく、英語で授業を取ることもできるので、英語が得意な方にもお勧めしたい大学である。

留学した動機

ドイツ留学の主な動機としては以下の 3 つの事が挙げられる。

- ①研究に不可欠であるドイツ語の能力を向上させたい。
- ②研究分野の基礎知識を獲得したい。
- ③ドイツの大学生活を体験したい。

①私の研究分野は聖書学であるが、この分野ではドイツ語の高い能力が重要になってくる。ドイツに一年間留学すれば、ドイツ語の力を効率よく向上させることが可能ではないかと考えたことが留学の最大の動機である。②また、この分野に関しては、東京大学よりもミュンヘン大学神学部の方がはるかに多くの講義、演習等が開講されている。そのため、学部生の段階で基礎的な知識を習得するには留学をすることが効果的であろうと考えた。③最後の動機としては、博士課程からドイツの大学院に進学する可能性を踏まえて、早いうちにドイツの大学のシステム、授業の質、雰囲気、また生活習慣、風土等を体験しておきたかったということがある。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況: 西暦[2015]年 学部/修士/博士[3]年の[夏]学期まで履修

②留学中の学籍: 休学/留学/研究指導の委託

③留学期間: 2015 年 9 月 ~ 2016 年 7 月 学部/修士/博士[3]年時に出発

④留学後の授業履修: 西暦[2016]年 学部/修士/博士[4]年の[冬]学期から履修開始

⑤就職活動の時期: 西暦[]年 学部/修士/博士[]年の[]月頃に(行った/行方予定) 未定

⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[42]単位 留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[8]単位
留学後の取得(予定)単位[40]単位

⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2012]年 [4]月入学 西暦[2018]年 [3]月卒業/修了

⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [6]年[0]ヶ月間

⑨留学時期を決めた理由:

全学交換留学では、制度上、3 年次あるいは 4 年次での留学が可能であるが、私は 3 年次に留学することに決めた。その理由は以下の 2 点である。

- 1)留年をせずに大学を卒業する可能性を残しておくため。4 年次に留学する場合は、必然的に、卒業するのが 1 年遅れてしまう。それに対して 3 年次の留学は、単位互換が上手くできれば、留年をせずに卒業することも可能である。
- 2)留学の動機にも上げたように、ドイツ語力を向上させる、あるいは専門分野の基礎知識を習得するには留学が効

果的であり、そのどちらも、学部生の早い段階で取り掛かるのがよいと思われたため。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

入学手続きに関しては、各留学生在が留学先大学から日時、場所を指定されるので、その時、その場所へ、事前に指示された必要書類(留学許可証、保険契約書など)を携えて行けばよい。ドイツ語が出来なくても英語で対応してもらえるので心配はない。登録料をいくらか現金で支払う必要があった。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザの種類は学生ビザで、申請は日本ではなく、現地で行うことになる。ただし、留学にかかる費用を親などの保証人が負担する場合は、ビザ申請の際に「経費負担証明書」を提出する必要があり、この書類は日本(ドイツ大使館)で取得しておくのがよい。その他必要な書類としては、パスポートとそのコピー、パスポート用の写真などがあるが、詳しくはドイツ大使館のホームページで確認すること。現地の申請先は Kreisverwaltungsreferat (KVR) という、言うなれば市役所のような所。、手続き自体に要する時間は 10 分程度だが、大勢の人が申請に来るので、朝早いうちに行かないと何時間も待たされることがある。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

出発前には一通り病院(歯科、耳鼻科など)を回って、健康状態に問題がないかを確認してもらった。特に、普段から飲んでいる薬は、ドイツで同じようなものが手に入るかどうかよく分からなかったので、病院で相談をして、普段より多めに処方してもらうなどした。その他にも、風邪薬、胃薬、目薬などを持参した。予防接種は特に受けなかった。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

- 1) 「学研災付帯 海外留学保険」 東京大学からの留学の際、加入が義務付けられているもの。
- 2) 「Techniker Krankenkasse」 ドイツの保険会社。ミュンヘン大学で入学手続きをするために加入する必要がある。一般的な留学保険では、歯医者での治療には保険が適用されないことが多いため、それをカバーするためにドイツの保険に加入しなければならないらしい。保険料は月々80€ほど。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

留学手続きとして、コース主任の承認印が押された留学許可願を提出した。その際に、単位互換についての説明を教務課から受けた。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

出発前の語学レベルは B1 レベル(ヨーロッパ言語共通参照枠)であった。渡独後、9 月に一か月間の語学講座を受講する予定になっていたのですが、その講座を受ければ、それなりにドイツ語が出来るようになるのではないかと考えていて、留学の前学期にはそれほど集中してドイツ語を学ばなかった。しかしそれはあまりに楽観的であった。授業についていくためには、留学が始まる前に少なくとも B2 レベルに達しているのが良いと思われる。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

到着後すぐに使いたいものは郵送ではなく、多少重いものでも荷物に入れて持っていくべき。私の場合、日本から送った宅急便が現地の寮に上手く届かず日本に送り返されてしまい、大変困った。また、ドイツは9月でも寒い日は寒いので、防寒着は必要である。加えて、最初の 2 ヶ月間は諸々の手続きや家具の購入などで結構なお金が必要になるが、現地の銀行口座がすぐに開けるとは限らないので、現金を多めに持っていくことをお勧めする。また、諸々の手続

きの際に留学許可証やパスポートのコピー、あるいは証明写真などを提出することが多いので、事前に準備しておく
とよい。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

ドイツ語(夏期準備コース)●

新約聖書入門(冬学期)

古代教会(冬学期)

旧約ヘブライ語(冬学期)

ヘブライ語(夏学期)●

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

留学中の学習は、一言で言えば語学学習に尽きる。冬学期にいくつか講義を履修・聴講したが、単位を取得するにはドイツ語力が明らかに不足していることを思い知らされた。また、聖書学の授業ではドイツ語の他にもギリシア語やヘブライ語の能力も必要であり、これもまだまだ自分には不足していると分かったので、夏学期は大学の授業をヘブライ語だけに絞り、同時に民間の語学学校に通ってドイツ語の能力向上に努めた。

授業のスタイルだが、講義は講師が質疑応答を交えながらテーマについて論じるというものであった。ここでは予習よりも、授業の内容を復習して整理することが求められた。ヘブライ語は教科書に沿って講師が文法等の解説を行った後、練習文を学生たちが独訳するというもので、予習が義務付けられていた。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

夏季休業中に開講されていたドイツ語コースは4週間、週5日、1日3~4時間。帰宅後に宿題を少しやる程度で、勉強自体はそんなに大変ではなかったが、この時期は色々と手続きも重なり忙しかった。

冬学期は講義2つとヘブライ語を受講。コマ数で言うと5コマ分(1コマ1時間半)。講義(3コマ)についていくために、教科書の指定された箇所(1コマあたり20ページ強)を事前に読んで予習したが、ドイツ語の能力不足もあり、毎日3、4時間かけてもなかなか読み終わらないといった状況だった。ヘブライ語(2コマ)は教科書の文法項目の予習と練習文の独訳の宿題があったので、毎日4時間ほどかけて仕上げた。土日休まず勉強しなければついていけないという状況だった。

夏学期は冬学期の反省から、民間の語学学校に通って、ドイツ語の授業を受けた(2か月間、週5日、1日3時間)。大学での授業はヘブライ語(週5コマ、1コマ1時間~1時間半)のみに絞った。ドイツ語の授業は復習、宿題に1日1時間半ほど時間をかけ、残りの時間(1日4時間ほど)はヘブライ語の予習、復習に充てた。

④学習・研究面でのアドバイス

留学先での学習を効率的かつ効果的に行い単位を取得するためには、語学力の他にも、その分野の基礎知識が重要である。私は“留学を通して”研究分野の基礎知識を習得しようと考えたが、その結果、何も知識を持たない状態で授業を聞いたため、ドイツ語が余計に難しく聞こえ、理解したいものも理解できないという事態になってしまった。当然のことではあるが、留学前に自分の興味がある分野の知識を少しでも深めておくのと良いであろう。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

語学は大変に苦勞をした。私のドイツ語力は留学応募条件ギリギリ(ヨーロッパ言語共通参照枠でB1レベル)で、ドイツの大学入学に必要なレベル(C1)には到底達していなかった。そのため、留学の始めの頃は日常会話もままなら

ず、当然ながら大学の授業を理解したり、ノートを取ったりするのも難しいという状況であった。留学の応募条件で定められている語学力はあくまでも最低基準であって、そのレベルに達しているからといって授業についていけないとは限らない。今後留学を考えている方には留学開始直前まで出来る限り語学力を高めることをお勧めしたい。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

宿泊先は派遣先大学に手配してもらった学生寮で、大学から徒歩 20 分、バスで 10 分弱、家賃は月 300€弱(水道代、光熱費、インターネット代込)であった。応募手続きの際に派遣先大学から住居の希望の有無を問われるので、希望したところ、先方が適当なところを割り当ててくれた。ただし、家賃や立地等の条件についてはこちらの望み通りになるとは限らない。私の学生寮では一つのフロアに 4 人が住み、それぞれ個室を与えられていたが、キッチン、シャワー、トイレは共有であった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は 1 年を通して東京よりも若干気温が低いが過ごしやすかった。大学はミュンヘン中心部にあり、周辺にはカフェやレストラン、本屋なども充実している。ミュンヘンはそれほど大きな街ではないので、自転車があればほとんどどこにでも行けてしまうが、公共交通機関もきちんと整備されていて、地下鉄、バス、路面電車を利用して街の隅々まで移動できる。アジア食品を取り扱ったスーパーもいくつかあるので、日本食を自分で作ることもできる。お金に関しては、銀行口座を開設して、日本からの海外送金を留学期間中 3 回ほど行った。毎月その口座から必要な金額を下して、基本的には買い物は現金で支払った。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

ミュンヘンはドイツ国内でも治安のよい街という評判であったが、滞在中、フランスでテロが起きたことなどもあり、人が集まる所に行くときにはいつもいくらか緊張した。留学期間中は幸い病気やケガをせずに過ごせたので医療機関についてはよく分からない。体調を保つためには睡眠時間をきちんと確保することと、栄養をバランスよく摂ることを心掛けた。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

生活費は月々 550€前後。家賃 300€、医療保険 90€、残りは食費である。外食はほとんどしなかった。

・留学に要した費用総額とその内訳

総額 125 万 = 航空券 18 万 + 生活費 85 万 + 語学学校 22 万 + 雑費(家具、教科書、定期券等)10 万

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

1) 「The Fung Scholarships」(The Victor and William Fung Foundation) 毎月 8 万円、10 ヶ月間

留学手続きの過程で、東京大学国際課から奨学金受給希望の有無を問われ、希望した。

2) 「ZDS-BA 奨学助成金」(東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター) 3475€ (一括)

所属コースの事務連絡でこの奨学金の案内が回ってきた。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

学期中は週末も含めてほとんど勉強しかしていなかった。それくらい予習、復習をしなければ授業についていけなかったということもあるが、勉強自体が楽しかったのも、それだけで充実していた。クリスマス休暇の際はドイツ国内を旅

行し、有名なクリスマスマーケットなどを訪れた。冬の長期休暇中はスペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラを目指す巡礼路を歩いた。一ヶ月間かけて 800 kmの道のりを歩く旅で、道中、世界各国から集まる巡礼者と交流を持つことができ、素晴らしい体験だった。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

大学付属の語学学校では、留学が始まる前の夏休み期間中に4週間の準備コースが、学期中には週2回の夜間コースが開講されていた。また、大学と提携している語学学校でも様々なレベルやニーズに合った授業が受けられる。どのコースも民間の語学学校に比べれば格安であるし、修了基準を満たせばドイツ語の単位を取得できる。また、現地の学生が留学生を個人的にサポートするシステムとして Buddy Program というものがある。留学生一人一人に担当の現地学生が付いて、生活や学習の中で困ったことがあれば相談に乗ってくれる。私も派遣先大学の入学手続きの際にこのプログラムに申し込み、Buddy を割り振られたので挨拶のメールを送ったが返事がなく、それっきり何の音沙汰も無かった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

各学部の専門図書館は非常に充実していて、日本では海外から取り寄せるしかないような専門書もすぐに手に取って読める。また、学生であればコピー機を利用して無料でスキャンが出来る。大学構内では PC、無線 LAN が各学生に割り当てられたログイン ID とパスワードで利用可能である。スポーツ施設、食堂は利用しなかったため詳しいことは分からない。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

研究職志望のため就職活動については今のところ未定。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

同上

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

同上

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)

4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界:)

6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

今回の留学は自分の現時点での能力を認識し、今後どのような勉強をしていくべきなのかを知ることができた点で有意義なものであった。また大学や語学学校、長期休暇中の旅行などで世界中のあらゆる国の人たちに出会い、自分とは異なった様々な生き方や考え方に触れることができたことも貴重な経験である。また、元来内向的であった自分自身の殻を破り、例え言葉が通じない相手であっても、自分の意思を伝えようとし、相手の思いをくみ取ろうとすれば分かり合えることがあるということを経験することができたのは、私にとっては大変大きな収穫であった。

②留学後の予定

留学後は学部4年の冬学期から再開することになるが、取得単位数の都合上、留年することになる。学部卒業後は日本の大学院修士課程に進学し、博士課程から再びドイツ(場合によってはそれ以外の国)の大学院へ進みたいと考えている。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学に少しでも興味がある方はぜひ一度真剣に検討してみることをお勧めしたい。留学はなにも語学力に自信のある学生だけのためのものではない。むしろ留学を通して自分の非力さを知ることが、さらなる高みを目指すきっかけになる。その言語が生きて使われている地で学ぶことは何よりモチベーションになるし、自分の語学力の上達を日に日に実感できるであろう。世界は広い。そのことを実感できるチャンスは人生にそう多くはないのではないだろうか。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

1)ミュンヘン大学ホームページ (応募・入学手続きを含めた留学生向けの情報)

https://www.uni-muenchen.de/studium/studium_int/erasmus_lmexchange/index.html

2)ドイツ大使館 (ビザ申請に関する情報)

<http://www.japan.diplo.de/Vertretung/japan/ja/03-konsular-und-visainformationen/0-RK.html>

3)münchen.de (ミュンヘン市公式サイト。住民登録、現地でのビザ申請に関する情報)

<http://www.muenchen.de/>

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。